

アフターコロナにおける 国際的な文化芸術フェスティバルの 進むべき方向性と可能性

映像配信期間

要事前申込・無料

2022年 2月21日(月)～3月21日(月)

※映像をご覧いただくには、事前申し込みが必要となります。お手数ですが下記のとおりお申し込みください。



申し込み方法

申し込みフォームQR



「<https://forms.gle/d5fEMWxzm234Z5JS8>」にアクセスしていただき、必要事項をご記入の上お申し込みください。本シンポジウム事務局より視聴のためのURLを3営業日内にご案内いたします。

※今後のシンポジウム運営のために視聴後のアンケート回答にご協力ください。

※googleフォームにアクセスできない方は、件名を「シンポ申込」として、空メールを事務局「info@pac.asia」までお送りください。エクセルでの「申込フォーム&アンケート」をお送りします。

申し込み期間

現在受付中～3月18日(金)まで



主催 文化庁

問い合わせ先 一般社団法人芸術と創造
info@pac.asia

プログラム (約3時間)

文化庁挨拶

話題提供 (約30分)

「国内外主要フェスティバルの開催状況」と
「国内主要フェスティバルに関するアンケート調査結果」

綿江彰禪 一般社団法人芸術と創造 代表理事

基調講演 1 (約35分)

コロナ禍における地方芸術祭

北川フラム (株)アートフロントギャラリー代表取締役会長 / アートディレクター

基調講演 2 (約35分)

国内外のフェスティバルの実施状況

宮城聡 演出家 / SPAC 静岡県舞台芸術センター 芸術総監督

パネルディスカッション (約70分)

パネリスト: 北川フラム / 宮城聡 モデレーター: 綿江彰禪 ※敬称略

アフターコロナにおける 国際的な文化芸術フェスティバルの 進むべき方向性と可能性

2021年も新型コロナウイルス感染症の影響は続き、多くの文化芸術のフェスティバルが延期・中止を迫られました。一部のフェスティバルは開催されましたが、事業の在り方や運営の方法は従来から大きく変えざるを得ない状況になっています。また、国際的な往来が制限されるなか、インバウンドの拡大や国際発信のための打ち手は制限されてしまっています。

新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たず、従来のような生活に戻るか不透明ななか、我が国における国際的な文化芸術フェスティバルはどのような方向に進むべきなのか、フェスティバルはどのような可能性を持ちうるのか。フェスティバルのディレクターを迎え、議論を行います。

登壇者

基調講演・パネリスト



©Mao Yamamoto

北川 フラム

株式会社アートフロントギャラリー
代表取締役会長
大地の芸術祭総合ディレクター
瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター
北アルプス国際芸術祭総合ディレクター
奥能登国際芸術祭総合ディレクター
いちばらアートミックス総合ディレクター

1946年新潟県高田市(現上越市)生まれ。東京芸術大学美術学部卒業。アートフロントギャラリー主宰。主なプロデュースとして、「アントニオ・ガウディ展」(1978-79)、アパートメントに反対する動きを草の根的に展開した「アパートメント否! 国際美術展」(1988-90)、米軍基地跡地を文化の街に変えた「ファーレ立川アートプロジェクト」(1994)等。地域づくりの実践として、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2000-)、「瀬戸内国際芸術祭」(2010-)等で総合ディレクターをつとめる。フランス、ポーランド、オーストラリアから勲章を受勲。2006年度芸術選奨文部科学大臣賞、2016年紫綬褒章受章、2017年度朝日賞受賞。2018年度文化功労者受章。2019年度イーハトーブ賞他を受賞。

基調講演・パネリスト



©Takashi KATO

宮城 聡

演出家
SPAC-静岡県舞台芸術センター
芸術総監督
SPACふじのくににせかい演劇祭
フェスティバルディレクター
東京芸術祭総合ディレクター

東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年クナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演(アジア演劇史上初)。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

話題提供・モデレーター



綿江 彰禪

一般社団法人芸術と創造 代表理事

2006年名古屋大学大学院経済学研究科修了。
2006年に株式会社野村総合研究所に入社し、官民のマーケティングや組織設計に関するコンサルティングに従事。2014年慶應義塾大学大学院文学研究科修了。2016年株式会社野村総合研究所を退職し独立。現在、一般社団法人芸術と創造代表理事。
政府や地方自治体を対象とした文化政策・産業政策および文化団体の運営に関するコンサルティングを行う。これまでの担当事業は100を超える。
詳細は<http://www.pac.asia/watae.html>参照。